

親 變 聖 入 御 眞 纂

全六卷 坂東御本 書復本 鳳本

特 別 提 供

期間の中と雖も豫定部數頒布切の節は謝絶す

申込期間 大正十一年四月一日より五月末日迄

壹部金六拾圓

【解説本添附】 (非賣品)

荷造送料

内地 金七拾五錢
支 樺 金壹圓五錢

申込金 (甲乙共) 金五圓 申込と同時に拂込のこと

冥加金 甲種一回拂込 金五拾圓 (申込金の外)
乙種二回拂込 金五拾五圓 (同上)

(四月、六月貳拾圓宛、八月十五圓拂込の事)
(一回拂は六月末日迄)外に荷造送料を要す

八月中製本完成 九月より 申込順にて發送す

本書は斷じて再製せず爾後永久無二の家寶也

京 都 烏 丸 七 條

電 話 〇 四 下 大 谷 派 本 願 寺 編 纂 課 三 振 替 一 大 四 阪 七

形より見たる複寫本

本書は仕立法竪九寸五分、幅七寸三分の大判にして和装六卷を堅牢なる絹紵の帙に収められたれば、その高さ三寸五分ありて實に崇重なる一大典籍なり。而してその紙質等は別記の如き特選のものなれば内容と形體と素質と相俟つて尊貴襟を正さしむるもの、されば之を書齋に供へては、自己督勵の龜鑑たらしむるを得べく之を客室に飾りては高雅崇重の表示として、必ずや陸離たる光彩を放たむ。

質より見たる複寫本

紙質は本典のため特に調製せしめたる厚き生漉きの上質を用ひ、第一卷(教行二卷)七十一紙、第二卷(信卷)八十八紙、第三卷(證卷)二十七紙、第四卷(眞佛土卷)三十七紙、第五卷(化身土本卷)五十四紙、第六卷(化身土末卷)五十紙、總計三百二十七紙あり。印刷面は原本の寸法其儘、即ち竪九寸五分、幅七寸三分、精巧なるコロタイプ版を用ゆ。各卷の表紙は、原本の表紙として七百年の星霜に消磨し、僅に片形を留めたる花鳥の織模様を模寫せる別織の都綴子を用ひて大和綴となし、あくまで原形を彷彿たらしむ。

複寫本刊行上の苦心

寫真撮影に關しては、舊臘二十二日東京淺草別院奥書院外庭に映寫場を特設し古文書撮影の専門技師一名并に助手三名の慘澹たる苦心に依り、一日僅に十餘枚

を寫了し得るに止まり、且つ天候の都合に依り光線の加減に考慮を要することなれば、全部の寫了は尠くとも六十餘日を要す。報恩寺住職は日々潔齋して恐惶之が遺漏なきを督せり。尙表紙の模造につきては、これまた斯業専門家の苦心に成れば、内外共に技術の精美を盡し權威ある大正美術として永久の生命を有すべし

今後の出版は可能乎

原典は宗門絶高の寶典なれば如何なる事情によるも到底私人の自由になし得べからざるのみならず、前述の如く出版界破天荒の企圖なるを以て、多大なる犠牲的努力を要し、且つ原本は七百の年時を閱して紙質脆弱となり居れば、之を再び撮影することは全然期すべからず、殊にコロタイプ原版は多くの部數を鮮明に印刷すること困難なれば、普通出版物の如く重版の自由は、絶對になしと云はざるべからず。

開宗紀念無上の家寶

本典は宗祖聖人が一代の心血を漉ぎ給へる幾多の聖典中、殊に淨土眞宗の教義と信仰とに關する文類并に御自督を組織的に叙述せられしものにして、本典の完成は、取りも直さず立教開宗なり。而かも本原典がその御草稿本たる點において、聖人御苦心の跡を偲び奉るに最も貴重なるもの、されば今後永久に重版せられざる複寫の一本を供へ、家寶として子孫に傳ふることは、立教開宗七百年を記念すべき絶高の意義ある事也。

版出念記年百七宗開教立

眞宗大谷
大學教授 廣瀬南雄先生新著

親鸞聖人の宗教

菊判三百頁
定價金參圓
郵稅拾八錢

著者、本書を著さむとして、そが家庭生活の煩累を避け、獨居して専心想を練り、筆を執る。然るにその稿未だ完く成らざりし時、夫人先づ逝き、次いで愛兒に別る悲歎遣るかたなく、悶々の情思、殆ど昏絶せむばかりなりしも、猶その間一道の光明を仄望して、これに啓導せられつゝ筆を絶たず。漸くにして成る。而して本書成るや、有志相謀りて「親鸞聖人立宗教の會」を開き、これを記念す。教界の新人、多くこゝに集る。かくの如きことは實に教界未だ嘗て聽かざる所、以て本書の價値を知るべし。本書、その内容親鸞聖人の生涯と教義と著作との三編に分ち、全く從來の無生命なる傳統的研究の型を打開して、そこに著者自身の胸奥に律動せる魂の苦闘を打ち込み、燃焼せる情熱と鮮透なる叡智とに彫琢せられたる體験的研究の新境地を啓拓し來る。先人未踏の世界に聖人の眞精神を汲まむとするもの、須らく本書に接せよ。敢へて薦む。

館藏法

電話四一〇八番
大阪大替

東京市東條六

發行所